

# まきびと カルデアの牧人 ～校長だより～ No.6

## つなげる力(1 学期終業式)

「落ち着いた学校生活を送れるようになるのはいつになるのだろう？」

今学期こそ平穏にと願う思いもむなしく、終業式前日までも大雨のための臨時休校という予想外の展開で1学期の終業式(リモート)を迎えることとなりました。

1学期にあったことを一つ一つ振り返り、「このような1学期で皆さんが学んだことは何か？あるいはここから学べることは何か？」と生徒に問うとともに、私自身の振り返りを生徒に話しました。私の振り返りは「これまでの経験では導き出せない判断を求められた4ヶ月」であったということ。例えば、予定されていた部活動の遠征の可否。生徒の思いや発生するキャンセル料の問題と同時に生徒の感染リスクをどう判断するかという前例や正解のない納得解を導く、まさに校長に与えられた「探究」活動のような毎日でした。

このような課題に何度も直面し痛感したのは、必要なのは単なる情報処理力やひとつの経験則ではなく、そこにある情報や経験等をつなぎ合わせる力であり、想像する力だということ。それを生徒にも感じてもらうため、700/800問題という課題を提示しました。

あなたはある災害で被災した住人が800人避難生活をおくっている避難所の責任者です。ある時、ボランティアの青年が「どうぞ食べてください」とロールケーキを700個届けてくれました。

あなたは避難所の責任者としてどう対応しますか？

参考：藤原和博氏「よのなか科」(スタディサプリより)

さて、あなたならどんな対応が出来るでしょうか？

この設定は実話を元にしており、実際には「受け取ってもらえない」ことが何度もあったそうです。それは双方にとって残念な結果であったと言えます。「100個足りない→(「公平」に)配ることが出来ない→受け取らない」という機械的、短絡的な解答ではなく、ロールケーキに喜ぶ子どもたちの笑顔を想像し、ほかの方法を柔軟に考えることができなかったのだろうかと残念に思ってしまう。(この判断には「公平とは何か」という別のテーマも関わっており、判断を難しくしているのだと考えます)

生徒たちの前にはこのような前例のない、正解のない難問がこれから何度も立ちはだかってきます。その一つ一つに逃げることなく向き合い、これからの未来を切り拓く力を身につけていってほしいと願っています。

今回、生徒には敢えてこの問題の様々な解答は話していません。自分なりの解答を他の人と共有し、多様な考え方を知り、それぞれの納得解にたどり着いてほしいと思います。